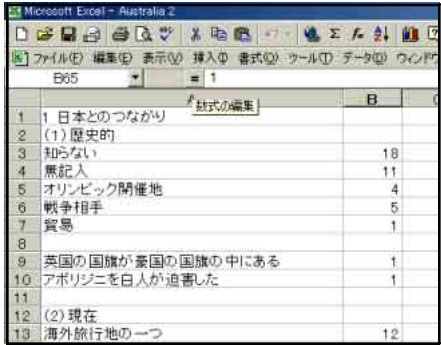




6. 単元計画 1. 留学生と交流しよう(配当時間 計4~5時間)

題目(配当時間)	学習内容	指導上の留意点
1. ガイダンス (1時間)	この単元の学習活動の概要と、意義やねらいについて、ハンドアウト・ワークシートをもとに理解する。 アンケート調査を行い、生徒が留学生の背景文化にどのような興味関心を持っているかを教師が把握する。	次回の留学生を招いた交流内容を紹介します。その後自分たちで探求活動を行い、発表活動に発展させることを紹介します。 講演者のプロフィールが用意できれば、事前に生徒に紹介することでイメージをふくらませることができる。
2. 講演 (1~2時間)	生徒と異なる文化背景を持つ留学生や地域の人に、それぞれの出身文化について英語で講演してもらおう。 生徒は講演の内容について英語で質問する。 講演の内容について、興味・関心を持ったことを書く。 留学生が講演するときに、どのように聴衆を引きつけようとしていたか観察する。	前回のアンケート調査で生徒の知っていること、知りたいこと、についてあらかじめ講演者に伝えておく。下図のように整理すると後で集計する場合に都合がよい。 
3. プレゼンテーションのグループ立ち上げ(2時間)	講演に対する感想を分析し、生徒の興味関心にそってテーマがまとまるように、教師がグループ分けの案を提示する。5人程度のグループを構成する。 今後の活動計画を確認する。 グループに分かれて、 テーマを決める。 調べる内容を柱立てする。 役割分担をする。	(図3: 交流前調査の集計) グループ分けについて、生徒の意図を教師が誤解している場合、生徒に申し出させ、グループの変更などを指示する。  テーマは制限時間で発表できそうなくらいに焦点化されているか。  グループ代表, 記録係, 資料保管係, 手紙係等。

評価の観点と方法	教科学習とのつながり など
<p>【関心】 異文化にどのような関心を持っているか 異文化と日本とのつながりを意識しているか (記録分析)</p> <p>【関心・意欲・態度】 講演を聴いて、興味関心が深まったか 講演の内容や提示方法について、自分たちがプレゼンテーションをすることを意識して観察できているか (記録分析)</p>  <p>(図4: 交流の様子)</p> <p>【探求活動】 異文化に対する理解が深まったか。 教師によって仮に与えられたグループのテーマにそって、各々の異なる興味関心の共通点を意識してまとめられているか プレゼンテーションの内容は、焦点化されているか テーマについての現時点での知識を手がかりに、どのように調査活動を展開するか 見当をつけているか (グループ活動の構想案の確認)</p>	<p>&lt;教科内容とのつながり&gt;</p> <p>話し手の意向を理解する能力 聞いた内容について質問したり、話し手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 (英語) 現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解できる。 (政治経済) 現代世界における文化の多様性・複合性に気づき、日本の生活文化や伝統を意識しつつ、異なった文化への理解を深める。 (現代社会) 世界の人々の生活・文化に関する地域的特色とその動向を、自然環境や社会環境に関連して理解できる。 (地理)  世界の歴史における各文化圏の特色について理解できる。また、現代世界の基本的な課題を歴史的視点から考察できる。 (歴史)</p>  <p>(図5: グループ活動の様子)</p>